

経歴と主な業績

1970年10月17日愛知県生まれ
 1993年3月：京大理学部卒業
 1993年4月：東京大学大学院理学研究科天文学専攻入学
 「岡山多目的近赤外線カメラ OASIS の開発」
 1995年4月：同 博士課程進学
 「オリオン星形成領域の超広視野近赤外線観測」
 「双眼広視野近赤外線カメラの開発」
 2000年12月：国立天文台岡山天体物理観測所非常勤研究員
 「岡山多目的近赤外線カメラ OASIS の改修」
 「新近赤外分光撮像共同利用装置 ISLE の開発」
 2003年4月：兵庫県立西はりま天文台公園天文台特別研究員

2007年3月：天文教育フォーラム実行委員
 「西はりま天文台彗星スペクトルセンター構想」
 「次期小惑星サンプルリターンミッションの探査候補天体の地上観測」
 「73P/Schwassmann-Wachmann 3 彗星の観測」
 「177P/Barnard 2 彗星の観測」
 「P/2006 T1 (Levy) 彗星の観測」ほか
 2007年5月22日 36歳で逝去

各種団体からの委嘱

2004年3月～ 彗星会議運営委員
 2005年1月～ 日本天文学会天文教育委員
 2005年7月～ 日本公開天文台協会事務局長

森 淳くんの急逝を前にして

宮田隆志 (東京大学大学院理学系研究科
 天文学教育研究センター)
 e-mail: tmiyata@ioa.s.u-tokyo.ac.jp

2007年5月22日未明、森 淳くんが急逝した。36歳。あまりに突然の報にまだ信じられない気持ちでいる。

思い返せば、私と森君との付き合いは15年前にさかのぼる。当時二人は京都大学に在学する大学3年生であり、物理教室宇宙線研究室の実習が出合いの場であった。当時から彼は天文学に強い情熱をもっており、特にモノを作ることに強いこだわりをもっていった。大学院も同じ東京大学天文専攻に進学した。東京にやってくるときには、「俺らは内部進学の人から見るとよそ者だから、早く溶けこまないといけない」などと勉強以外のことに(も?)腐心し、宴会や旅行の企画などを次々と立案していた。彼は人と打ち解けるということに関して非凡な才能をもっており、場を盛り上げる天才であった。われわれの同期が今でも結び付きが強く仲が良いのは、全くもって彼のおかげである。

研究の面でも開発が進められていた岡山天体物理観測所の赤外線カメラ OASIS の開発グループに入り、その立ち上げに尽力した。おりしもシューメーカー・レビー9彗星の木星衝突の直前、それまでに装置を完成させんと夜を徹して頑張っていた姿が思い出される。

大学院を出たあと、彼は岡山・西はりまと活躍の場を移して行ったため、頻りに会うことは減ったが、年2回の学会では必ずといっていいほど

会っていた。学会で会うといっても昼のセッションで議論を交わす、などということは滅多になく、夜に居酒屋でうだうだ話すことがほとんどだった。“最近はしらふで会わないなぁ”とお互い言い合っていた。酔って話すのは「公共天文台のこれから」などというまじめなことから、「誰と誰が付き合っている」などというゴシップ? まで多岐にわたっていた。

このように書くときと遊んでばかりのいいかげんな奴に見えるかもしれないが、その実、とても真面目で人を思い遣る人間だった。誰かが問題を抱えているときでも、一番に気づき、裏ではいろいろ気遣い、けれどそういうことをあまり表に出さない奴だった。口が軽そうに見えて嘘や隠し事が嫌いで、秘密にしなきゃいけないことなら教えて欲しくないなどと言っていた。

森君と最後に会ったのは1月、私が西はりま天文台に出張したときである。一緒にロッジに泊まり、いつものように痛飲した。頼んでもいないのに生まれて間もない長男亮くんの写真を見せてくれた。“俺も完全な親木鹿になった”などと笑っていた。

つらつらと思い出話を書き連ねてしまった。最後に森君のご冥福と、彼が今もっとも心配しているであろう奥さん息子さんのご健康をお祈りし、この稿を終えたいと思う。